

和歌山県「新しいライフスタイルの構築による海洋プラスチックごみ問題の解決」議事要旨

(開催要領)

1.開催日時:令和2年12月14日(月)13:00~15:45

2.場所:ダイワロイネットホテル和歌山 プレジール

3.登壇者 :

和歌山県参事 高垣晴夫

環境省 海洋プラスチック汚染対策室 室長補佐 飯野 暁

京都大学大学院 地球環境学堂 准教授 田中 周平

和歌山県 環境生活部 環境政策局 循環型社会推進課 地域環境推進班 班長 辻内 崇志

花王株式会社 ESG 部門 ESG 活動推進部長 金子 洋平

一般財団法人和歌山環境保全公社 総務課 中林 憲一

NPO わかやま環境ネットワーク 事務局長 臼井 達也

一般財団法人日本環境衛生センター 研修事業部・SDGs 担当 事業推進役 鈴木 弘幸

(プログラム)

1.開会挨拶 高垣晴夫

2.施策説明 海洋プラスチック問題に対する環境省の取り組み 飯野 暁

3.講演①「琵琶湖・大阪湾流域におけるマイクロプラスチック汚染の実態」田中 周平

講演②「発生抑制モデル事業(監視カメラの設置運用)」辻内 崇志

講演③「花王の商品開発における環境対応」金子 洋平

講演④「海洋プラスチックごみ対策を主体とした環境保全教育事業

・うみわかまもるプロジェクト(令和2年度新規事業)」中林 憲一／臼井 達也

4.パネルディスカッション

「ライフスタイルの変革、with コロナ、一人一人が出来る取組」

ファシリテーター 鈴木 弘幸

パネリスト 辻内 崇志／金子 洋平／中林 憲一／臼井 達也／飯野 暁

5.閉会挨拶 飯野 暁

* 敬称略・順不同

1.開催挨拶

和歌山県では、令和2年4月から「和歌山県ごみの散乱防止に関する条例」を施行。プラスチックは外に出さず、正しくゴミにし、不法投棄はさせないことを目指しています。本シンポジウムは、来年、ロケットが打ち上げられる和歌山から、全ての生物の命を考え、未来を見据える「命よし・宇宙よし・未来よし」のキーワードで考えていきたいと思えます。

2. 施策説明「海洋プラスチック問題に対する環境省の取り組み」

海洋プラスチックごみは、観光や漁業、生活、海洋生物への影響があります。対策として、国際的には SDGs や「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」があります。国内では「海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」を策定し、政府と地方自治体や民間が協力して回収・リユース／リサイクル・素材の検討を進めています。また、プラスチックと賢く付き合える商品やサービスを推奨しています。また、「海ごみゼロウィーク」での全国一斉での清掃活動や、海洋ごみ対策の優良事例への「海ごみアワード」の表彰を行っています。

来年度からは「ローカルブルーオーシャンビジョンでの地域ビジネスの推進」に取り組めます。

3. 講演①「琵琶湖・大阪湾流域におけるマイクロプラスチック汚染の実態」

回収されずに捨てられたプラスチックは、太陽光や温度変化などを経て徐々に小さくなり、5mm よりも小さいものをマイクロプラスチックと言います。

魚や貝などがマイクロプラスチックを体内に取り込むと、消化管だけでなく、エラや脳にも蓄積すると報告されています。また、琵琶湖や大阪湾の水や泥からは、切れた釣り糸と思われるポリプロピレンなど 26 種類のプラスチックが見つかりました。これらの表面には高濃度の化学物質が吸着しており、環境に対する影響も心配です。

劣化したプラスチックだけでなく、化粧品などに元々含まれるものは、洗顔などを通じ下水に流れます。多くは下水処理場で除去していますが、一部は環境中に流出しています。プラスチックの一面を知り、管理していくことが大事だと思います。

講演②「発生抑制モデル事業(監視カメラの設置運用)」

和歌山県では、令和 2 年 4 月から「和歌山県ごみの散乱防止に関する条例」を施行。県内に 9 名の環境監視員でパトロール活動を行い罰則規定も設けています。

和歌山県では不法投棄防止に積極的で、平成 24 年度から監視カメラ 45 台を活用し、不法投棄が減りました。令和 2 年度には、海洋ごみ発生抑制対策等モデル事業に採択され、100 台の監視カメラを増設し対策を強化しています。

不法投棄の発見にはドローンも活用。ごみの散乱を「しない」「させない」「許さない」を合言葉に、県内をよりきれいにするために取り組んでいます。

講演③「花王の商品開発における環境対応」

花王では、洗剤や化粧品等の容器は中身の保護や使い勝手等の観点からプラスチックを使っていますが、環境調和を意識し、徹底的な削減と再利用に取り組んでいます。

製品のコンパクト化、詰め替え・付け替え商品等に取り組み、詰め替え製品ならプラスチック使用量は在来品の 10%以下で済みます。

再利用については、使用済み容器の資源循環の推進に向けライオン株式会社と協働し、

RecyCreation(リサイクリエーション)活動を始めています。

また、和歌山市とSDGs推進連帯協定を結び、友ヶ島に漂着する海洋ごみの再利用についても研究しています。

講演④「海洋プラスチックごみ対策を主体とした環境保全教育事業・うみわかまもるプロジェクト」
和歌山環境保全公社は、「うみわかまもるプロジェクト」を、NPO 法人わかやま環境ネットワークと共に取り組んでいます。

当プロジェクトは、未来を担う子どもが継続的に関われるものとしてスタートしました。コロナウイルス禍によりイベントが開催困難になったことで発想を転換し、学習教材として「うみわかまもる」というウミガメを主人公とした動画を作りました。ごみ収集車や環境イベントデザイナーなどを取材し、家庭に居ながら親子で楽しみ環境について学べる内容です。また、登録無料の会員制の交流サイトも作り、会員と事務局との双方向の仕組みも整えています。今後も新たな動画制作や活動グループとの連携に取り組みたいです。

4.パネルディスカッション

「ライフスタイルの変革、with コロナ、一人一人が出来る取組」

①飯野

京都大学大学院の田中准教授のように、海洋ごみを調査し、客観的な見地からデータを分析することは政策立案において大事です。

また、和歌山県だけでなく海洋ごみ発生抑制対策等モデル事業として環境省でもサポートしています。

国の役割は、各地の取り組みを広く全国に伝えていくことです。地域の皆さんには「Plastics Smart」のプラットフォームを活用し、様々な活動を多くの方々に広めていただきたいと思います。

②辻内

和歌山県では令和2年4月から「和歌山県ごみの散乱防止に関する条例」を施行。これまでの成果は、口頭による回収命令が38件、文書発布が1件です。当条例では、教育と啓発として、県の循環型社会推進課から学校での環境学習に講師を派遣しています。

「わかやまごみゼロ活動応援制度」では、県民による自主的な清掃活動を支援しています。今後も県民、事業者、県内の市町村で話し合いの場を設けていきたいと思っています。

③金子

消費者の環境への意識は、まだ充分ではありません。これにはメーカーからの啓蒙とともに子どもたちへの環境教育が重要です。当社も、出張授業や絵画コンテストなどを通じ、環境への意識を活性化しています。

捨てられたごみの活用も重要で、和歌山市とのSDGs推進連携協定では、和歌山に工場と研究

所がある当社のテクノロジーにより、ごみの再利用を検討しています。

さらに、昨今の企業活動には ESG が不可欠です。もっと E(Environment)や S(Social)の点で我々の技術や知識を発揮できると思います。リサイクル技術をもっと研究し、国や自治体等と連携していきたいと思います。

④中林

和歌山環境保全公社では、環境型社会形成のための啓発推進事業の一環として、県内の事業所への講習会も実施しています。講習を通じ、皆さんの意識形成に我々が一役を担っていることを感じています。公益的な使命を持つ公社として、NPO などの力を借り、様々な環境問題に取り組みたいと思います。

⑤臼井

スウェーデンの環境活動家グレタ・トゥーンベリさんの気候変動に対するスピーチ等を通じ、地球環境への関心は高まっています。市民活動と自治体や企業の皆さんが繋がることで、環境活動が推進します。国や自治体による環境活動に対するルールなどが整備されれば、より活動しやすくなると思います。

そして環境問題は世界の課題でもあり、自分たちの地域だけでなく、世界に向けた視野も必要だと考えます。

市民活動を通じて得た地域の皆さんからの貴重なアイデアを、自治体や企業と連携しながら進みたいと思います。

4.閉会挨拶

私たちが目指すのは、海洋プラスチックごみをなくし、プラスチックを資源として有効活用できる社会です。環境省としても、そのような社会の実現に向け、しっかりと政策を立て、取り組みたいと思います。

以上